

～被災地の働く障がい者の方々のために～

震災復興チャリティー企画 現代国際巨匠絵画展

草の根 NEWS

発行：＜福祉の絆＞絵画展

実行委員会

発行責任者：友野 剛行

事務局：船橋市滝台町 33-4

(ワーカーズハウスぐらす内)

TEL：047-402-4276

grass@hatarakimononoie.com

発行：平成 25 年 7 月 2 2 日 (第 1 号)

まだ傷癒えぬ東北被災地の障がい者等社会的弱者のために

私たちの地元・千葉から今何ができるだろうか？

震災復興チャリティー企画 現代国際巨匠絵画展のご案内

＜福祉の絆＞絵画展実行委員会

実行委員長 友野 剛行

平成 25 年 8 月 2 4 日 (土) から 2 6 日 (月) の 3 日間、津田沼駅前のモリシアホールにて、上記の企画絵画展を開催いたします。

地域の皆様方には、①企画の主旨 (震災被災地の現状と支援の必要性) ②絵画展の具体的内容・招待画家の紹介 ③福祉コーナー (障がい者の手作り品など) について、この「草の根 NEWS」にて、順を追ってご紹介したいと考えます。

今回はまず、先日被災地宮城県多賀城市に視察訪問に行ってきた実行委員のリポートからご紹介します。

この企画の趣旨に賛同し、実行委員を手伝ってくれる方を現在募集しております。

宮城県多賀城市の福祉作業所 訪問記 (7 / 1 1)

＜福祉の絆＞絵画展実行委員事務局 西島希美

平成 2 3 年 3 月 1 1 日の東日本大震災が起こってから、毎日多くの報道が流されました。しかし、いつの間にか年月が経ち被災地への関心は薄らいでいっているようです。

私は障害者福祉事業所で働いています。そこでは、職員も利用者も、健常者も障害者も関係なくお互いに支え合って働いています。そしてそこで私たちは、地域の皆様の多くのご理解とご協力に支えられて、前向きに明日へと希望を持ち頑張れるのだと思います。

そんな中、7 月 1 1 日に多賀城市にある福祉作業所を訪問してきました。その施設長が私たちを迎えてくれ、当事者でしか感じる話がたくさん聞くことができました。お話しいただいたその内容は、メディアが流す映像や報道とはまったく違っており、震災の悲惨な状況だけでなく、現在も続く苦しみの現実でした。被災での生死の別れ目も、それは「たまたまそこにいただけの違い」でしかありません。「未だ仮設住宅で暮らす方々の『今が 1 番苦しい』との悲痛な叫びを知っていますか？聞こえてこないでしょ？」と。

その福祉作業所の職員と障がい者のみなさんは、当時全員で避難し、氷の雨が降る歩道橋の上で救助が来る翌朝まで支え合い、温め合いました。歩道橋のすぐ下は地獄絵図そのものでした。

津波の実際は本当に恐ろしいもので、安易な気持ちで表現できない残酷な光景を子供たちもみんな目にしています。津波が引いた後、あちらこちらのフェンスや塀には人体の一部が引っ掛かっていたり、瓦礫の下には死体が転がっていたりして、そのような状況が日常風景となるような環境で、被災地の方々は、長い間身を寄せ合うように暮らしていました。その地獄絵図は、誰の心にもハッキリ残っており、決してそれを忘れることはできません。そのような具体的事実が、テレビや新聞によって正しく報道されたことはありませんでした。

また障害者や認知症の高齢者が一緒に避難させてくれる場所は何処にも無く、その場所の確保に明け暮れる日々だったといいます。（写真は、私が現地で撮ってきたものです。）

公的な復興資金や全国からの義援金は、こうした福祉作業所には1円も落ちてきていないといいます。そしてそれ以外の寄付や助成についても、現場とのミスマッチのものも多いようで、お話しを聞く中で、支援する側ももっと現状を知り、現場の立場に立った支援というものを考えなければならぬと感じました。例えばこんな事例をお話してもらいました。「作業所に届いた被災地支援は、新しいコピー機とクーラーです。建物が全壊して、仮の場所を企業から一時的に使わせてもらっている状態なのに、これらを何処に置けば良いのでしょうか？」と。

では今私たちにできる支援とは一体どんなものなのでしょうか。今回の私たちのように、実際現地に訪問し、今の具体的な苦悩に耳を傾けた人たちが、まさに<草の根>としてその生活圏の中で、広く事実を伝えていくこと。その上で実際に必要なことを具体的に考え、被災地の方々とのネットワークの中で、的確な支援策を実現していくことだと考えます。その<草の根>活動の第一歩として、今回の絵画展の成功に向けて、努力していききたいと思います。



<企画 概要>

企画名：震災復興チャリティー企画 現代国際巨匠絵画展／障害者のアート・手作り品作品展

主催：<福祉の絆>絵画展実行委員会

委員長：友野剛行（ぐらすグループ代表）

日時：8月24日（土）～26日（月） 現代国際巨匠絵画展

場所：モリシアホール（習志野市谷津1-16-1） 入場：無料

出展内容：シャガールやピカソなどの版画や、現代画家の原画、東山魁夷などの画家の作品。

障がい者のアート・手作り品展示、被災地の現状写真等の掲示。

招待画家：ミゲール ペイドロ氏（フランス）

後援：特定非営利活動法人しーど（八千代・船橋）、特定非営利活動法人なゆた（浦安）、特定非営利活動法人あいらんど（浦安）、特定非営利活動法人1 to 1、株式会社宝珠（船橋）、株式会社ホームグランド（船橋・習志野）、株式会社ふくしねっと工房（船橋）、株式会社エイド・サポート（江東区）、高齢者・障害者支援センターりんかむ（船橋）、長野建設株式会社、株式会社My ふなばし、株式会社型善、フロロラッピング、WELFARE TRADE SHOP マジェルカ、有限会社キュベル、二宮飯山満地区社会福祉協議会（以上、7月17日現在。）

以上、<福祉の絆>絵画展実行委員会に関するお問い合わせは事務局（047-402-4276）西島まで。